



三互の繁栄

私達の日本・私達の会社・そして 私達の繁栄につとめましょう

基本理念

公正と誠実な行動、
強い団結力と相互信頼の醸成を通して、
ひとづくり、ものづくり、環境づくりを実践し、
これらの調和を通じて、
すべての国や地域の発展に貢献し、
豊かで住みよい社会の繁栄に努めます。

伝統の継承とチャレンジ精神の
育成を通じた、世界に通用する
ひとづくり

ひとづくり

伝統を継承しつつ、
変革を恐れない

素材から製品まで一貫した
生産技術のさらなる革新と
独創的な製品の開発を通じた、
世界最高水準のものづくり

調和
Harmony

地域社会と一体となった、
個人から地球全体までの
環境づくり

ものづくり

環境づくり

編集方針

創業90周年の節目として、今年度より環境・社会・ガバナンスに関する取組みに加え、財務・非財務情報を加えた統合報告書「三五グループレポート」を発行することとなりました。

100年に一度の大変革と呼ばれる業界構造変革を乗り越えられるよう、新たに策定した中期経営計画2022

をはじめ、将来にむけての技術への取組みにフォーカスした編集を基本方針としました。

本レポートを通じて、当社の現状、課題に対する姿勢や、当社が目指す今後の方向性について、多くのステークホルダーの方々にご理解頂ければ幸いです。

| 全体の位置づけ



CONTENTS

01 社是／基本理念／編集方針	11 CSR活動報告／環境	17 CSR活動報告／ガバナンス
02 CSR方針	12 CSR活動報告／地域社会とともに	18 CSR活動報告／コンプライアンス
03 社長メッセージ	13 CSR活動報告／お客様とともに	19 非財務・財務ハイライト
07 特集1. 成長のあゆみ	14 CSR活動報告／仕入先様とともに	21 会社概要
09 特集2. 燃費向上製品による環境貢献	15 CSR活動報告／従業員とともに	22 製品概要



ひとづくり、ものづくり、
環境づくりを磨きあげ、
持続可能な
成長をめざします。

代表取締役社長 恒川 幸三

Kazuo Tsukagawa.

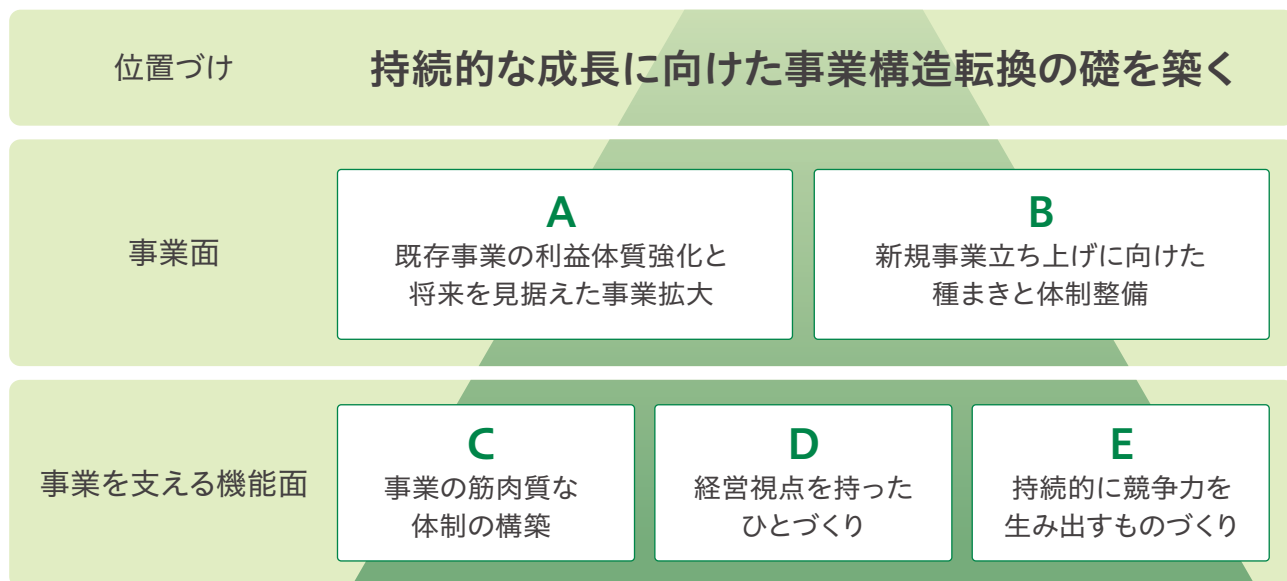
長期を見据えた「中期経営計画2022」の策定

この度、三五グループは2022年に向けた「中期経営計画」を策定しました。今、自動車産業は“100年に1度”と言われる大変革期にあり、CASEと呼ばれる4つのキーワード【Connected(つながるクルマ)・Autonomous(自動運転)・Shared(配車サービス)・Electric(電動化)】に代表される大きな変革の波が押し寄せ、これまでの業界の常識や構造のすべてが変わってしまうと言っても過言ではないでしょう。我々のお客様である自動車メーカー各社も、間違いなくその方向へと舵を切っており、当社もそれに追従せざるを得ません。

三五グループのコア事業は自動車排気系部品の製造です。脱エンジンの動きの中で、この先、需要が大幅に減っていくことが十分に懸念されます。そのような中、新たに策定した中期経営計画の主テーマを「持続的な成長に向けた事業構造転換の礎を築く」とし、事業環境の変化の中で、熾烈な生き残りをかけた事業構造転換の土台づくりを行います。

これは三五グループが、未来に向けて持続的に成長していくための方針であり、目標です。今こそ全グループ社員が共通の危機感を持ち、この時代の変化の中に新たなチャンスを見出し、果敢にチャレンジできる人づくり、風土づくりに注力して進めていかなければなりません。

中期経営計画2022



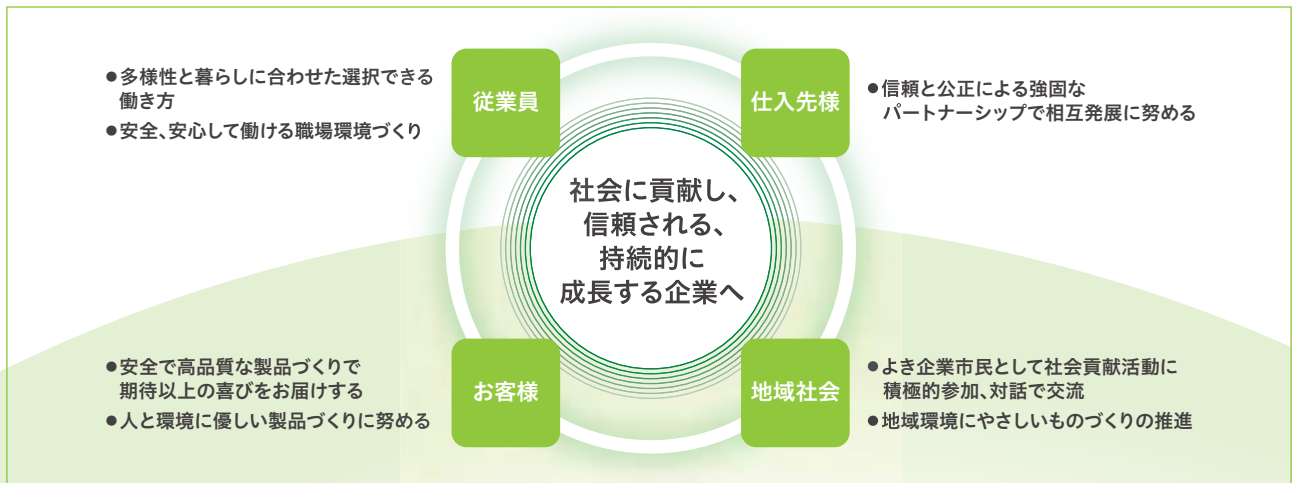
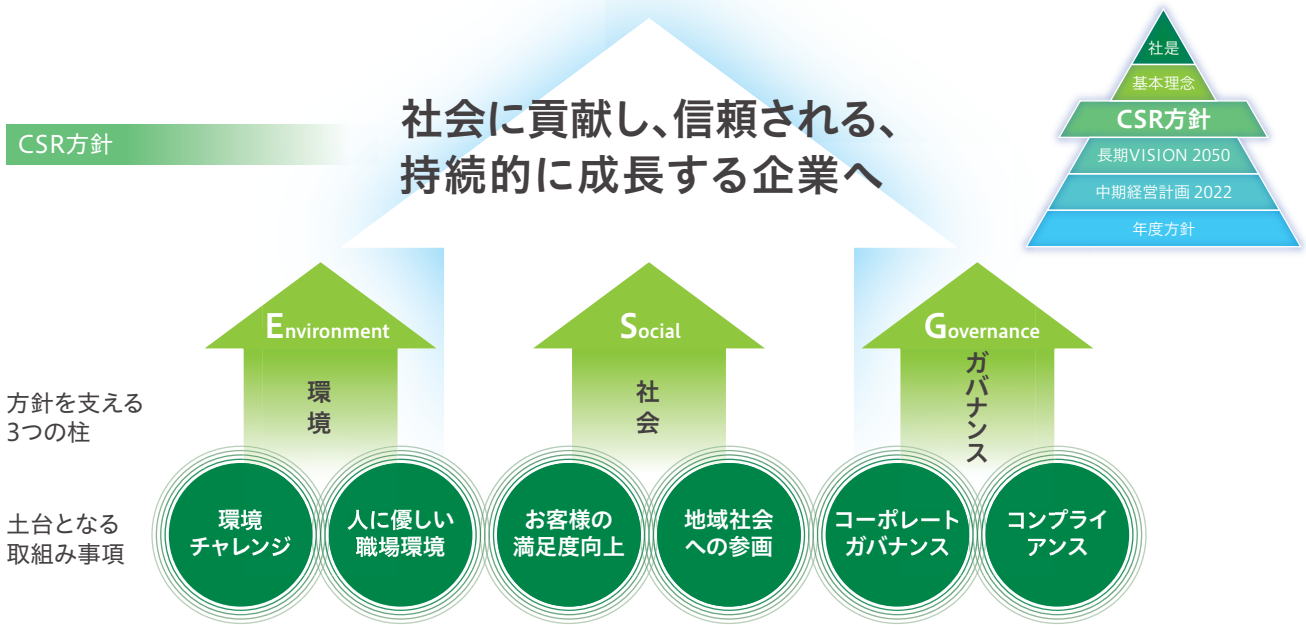
「CSR方針」と「環境チャレンジ2050」について

そして新たに「CSR方針」と「環境チャレンジ2050」を策定しました。このCSR方針に掲げた「社会に貢献し、信頼される、持続的に成長する企業へ」は、きわめて当たり前のことですが、最近はその当たり前のルールが守られず、長年にわたって築き上げた”信頼”を一瞬にして失う企業も多く見られます。三五グループも今一度、基本をしっかりと見つめ直し、企業として襟を正すとともに、”事業を通じた社会貢献”を推進し、持続的な成長を続けていきたいと思ひます。

企業の持続可能性を高める要素として、ESGというキーワードを最近よく耳にするようになりましたが、当

社のCSR方針も環境、社会、ガバナンスを3つの柱とし、その土台となる6つの取組みを推進してまいります。

特に環境問題、地球温暖化については世界的にも深刻な課題として、より効果的な取組みが求められています。私たち製造業は生産工程での取組みはもちろん、自社製品を通じたイノベーションによっても、より価値のある環境貢献が可能だと考えます。当社はこれまで、社会のニーズに開発力や技術力でお応えすることで、企業価値を高め、成長し続けてきたと自負しています。今後も、こうした三五独自の強みを活かして、社会課題の解決による価値の創出に挑んでいきます。



環境
チャレンジ
2050

環境貢献製品の
市場拡大と創出
製品を通じた環境づくり

社会・お客様の持続可能性に貢献

事業活動による
環境負荷の低減

生産現場の環境づくり

自然環境の
保全

森づくり

詳細はP.11



三五和田山工場での植樹祭(2009年)宮脇昭先生(左)とともに。

三五の植樹活動

「環境チャレンジ2050」には「製品を通じた環境づくり」、「生産現場の環境づくり」、「森づくり」の3本柱を掲げましたが、三五グループでは2006年から「三五の森づくり」という名の植樹活動をおこなっています。

そのきっかけは、当社発祥の地である名古屋工場から規制物質が発見され、土壌を改良することになったことです。その場所には製造工場でなく、将来のための研究施設やホール、モノづくりの伝統を受け継ぐマ

フラワーミュージアム、そして環境保全を意識した森と水田、ビオトープを造ることにしました。植樹活動開始当時から、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生のご指導の下、国内外の拠点周辺で行っており、これまでに累計約24万本を植樹しました。植樹活動には社員だけでなく、その家族、そして、時には周辺の地域住民の皆さんなどにも参加していただくこともあり、心地よい汗を流しながらコミュニケーションを深めています。

ステークホルダーの皆様へ

さて、この大変革期の中で生き残っていくためには、斬新な発想も大切ですが、今まで培ってきたノウハウをどう生かしていくか?という視点も重要です。新興国においては、まだまだマフラーの需要は伸びるでしょうし、排気系システムは排気ガスの浄化機能だけでなく、消音機能もあります。例えば、この“音”について、新しい価値を提案していくこともできると考えています。当面は既存事業をベースに、新事業もバラ

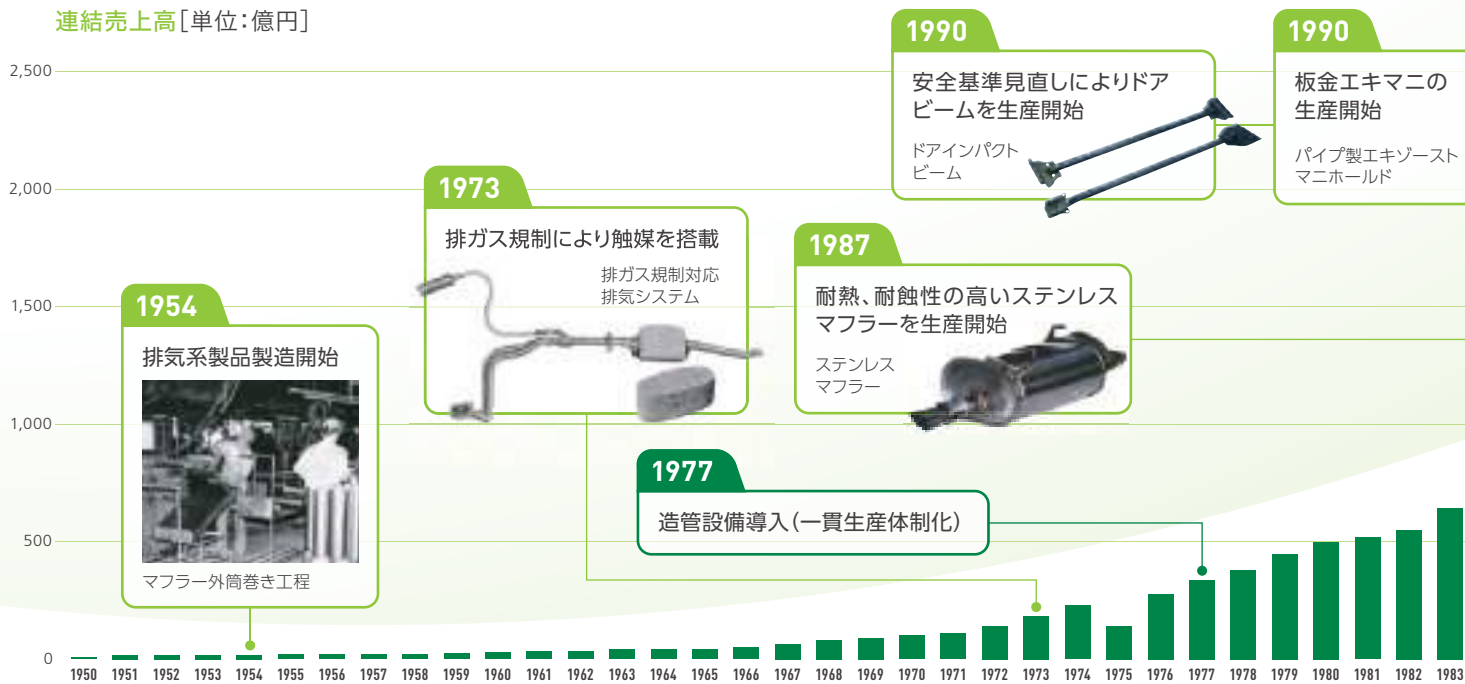
ンスよく伸ばしていきたいと考えており、世の中の進化に伴う新技術、IoTやAI等は、これからさらに本腰を入れて取り組んでいくことで有効活用していきたいと思えます。

それらを実現するには、時代の変化に対して柔軟に対応できる、経営的な視点を持った人財こそが今の三五グループにはもっとも重要だと考えています。しかし、人財づくりは一朝一夕にはできません。そのためにも、当社社員をはじめ、さまざまなステークホルダーの皆様にもまず三五グループのことをよりご理解いただきたいと思い、「三五グループレポート」を発行しました。このレポートがステークホルダーの皆様との有意義な対話を促すツールになれば幸いです。



成長のあゆみ

三五グループは創業以来90年の歩みの中で、排気系部品の製造を通じて自動車産業の発展を支え続けてきました。時代とともに製品を通じた環境への貢献、グローバル化などにも向き合い、新たな時代に向けた積極果敢な挑戦を続けていきます。



設立期 1950 ≫ 1959

排気系部品製造の開始

株式会社三五の設立は昭和25年(1950)。翌年には、今日まで三五の精神的なよりどころとなっている「社是」が定められました。戦後の日本が次第に復興するに伴い、自動車産業においても大衆車創世期ともいべき時代が訪れる中、当社は昭和29(1954)には排気系部品の製造を開始し、恒川鉄工所時代から続く部品製造・精鋼製造をものづくりの2本柱として、技術の向上と製造品目の拡充に努めました。



[1953] ワイパーベンディングマシンを導入
人力で行っていたパイプ曲げから試行錯誤の中、機械化により量産が可能となった

揺籃期 1960 ≫ 1975

トヨタの承認図メーカーへ

当社が排気システム専門メーカーへと舵をきったのは、高度成長期における本格的なマイカーブーム到来の頃です。顧客の高度な要求事項に対し、排気音を測定する最新の実験室を設けるなど、課題の克服に積極的に取り組み、排気システム技術を磨いて、トヨタ自動車工業株式会社の「承認図メーカー」としての地位も確立しました。この頃から排出ガス規制にも対応するなど、時代の要請に応えるべく様々な研究・開発を行なっています。



さらに工場の拡張・新設などにも注力していきました。

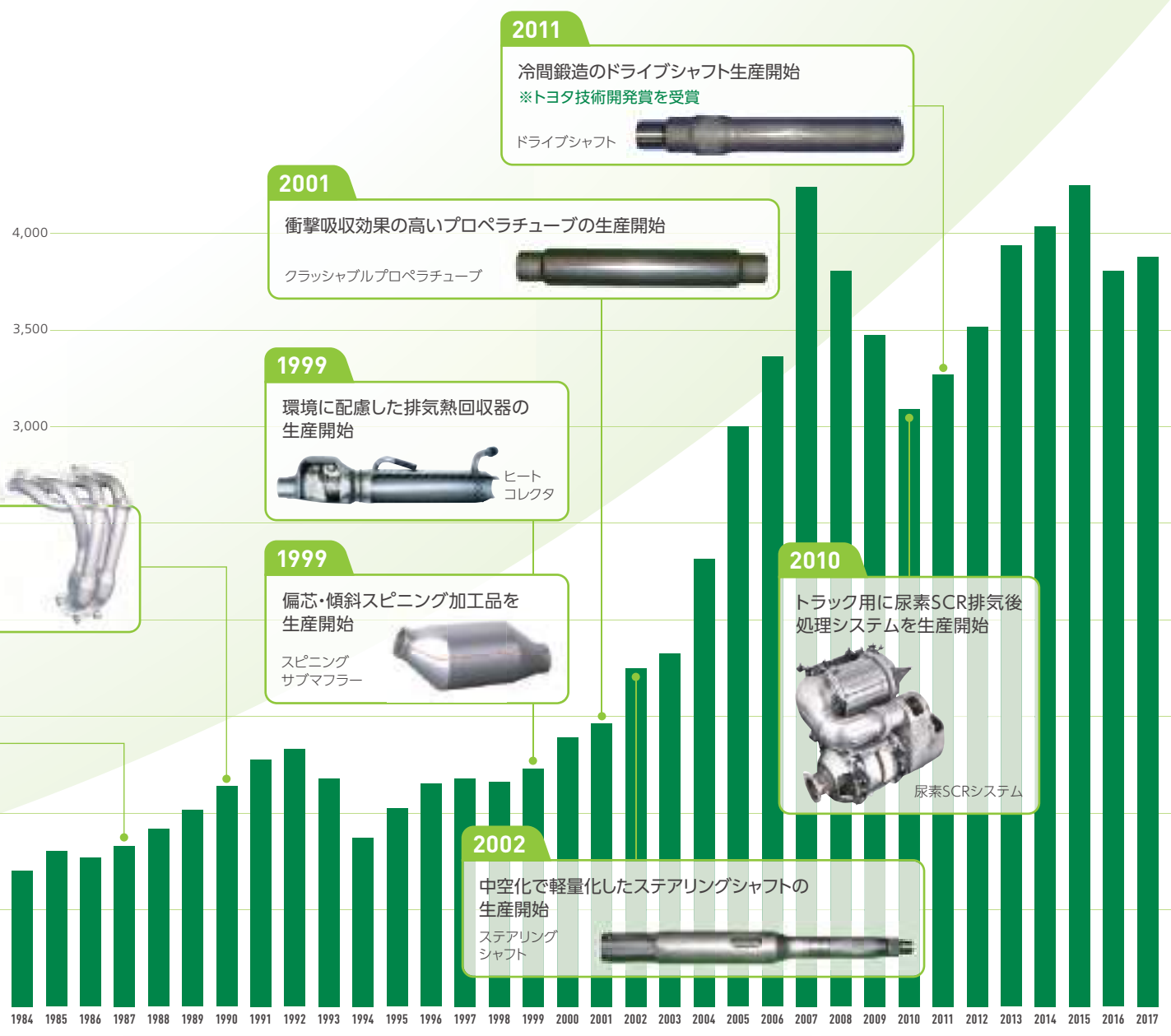
[1961] マフラー・エキゾースト研究室を設置
名古屋工業大学との共同研究を行う等、マフラーの基礎研究が本格化する

成長期 1976 ≫

トヨタ生産方式との出

効率化を徹底し、生産性を(1976)に「トヨタ生産方式」により、工程の改善や品質底層的なムダ排除の気風が60年(1985)には「トヨタ品」ました。日本は高度安定成長の時は成熟化・多様化へと向か
頼性を日指して着実に歩を

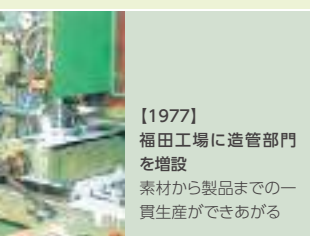




1986
会い
向上させるため、昭和51年式]が導入されました。これの確立を図るとともに、徹底根付いていきました。昭和質管理賞 優秀賞]を受賞し
代で、自動車に対する需要い、当社もより高い品質・信進めていきました。

飛躍期 1987 ≫ 2007
世界標準を目指して
日本の自動車メーカーが円高による輸出競争力の低下や貿易摩擦などを背景に、海外現地生産に活路を求める動きに歩調をあわせ、昭和62年(1987)の米国アービン社との合併を皮切りに、技術提携を含め世界各地に拠点設立を展開しました。
また、世界的な資源枯渇や環境汚染にともなう企業責任が叫ばれる中、環境管理基準に対して環境負荷削減活動を展開し、平成12年(2000)にはISO14000の認証を取得。さらに、特許を取得するなど、技術面においても高い実績を残しています。

挑戦期 2008 ≫ 2017
新しい時代への挑戦
自動車産業をとりまく事業環境は地球規模で大きく変化しており、持続的な発展のために、あらゆる分野で新しい方向性が模索される中、当社では現有技術を活かした新事業への挑戦が始まっています。
一方、三五の森づくりなど、環境との共生を目指す独自の活動にも取り組み続け、創業以来変わらぬ社会貢献の志、ものづくりに対する真摯な姿勢を守り、伝統を継承しつつも変革に挑み続け、社会から必要とされる企業を目指して邁進していきます。



【1977】
福田工場に造管部門を増設
素材から製品までの一貫生産ができる



【1988】
アービンサンゴ(ASI)で開所式
当社初の海外事業体。以後、アジア、中国、欧州と拡大していく



【2015】
豊田第2技術館竣工
豊田工場を技術開発拠点に

燃費向上製品による環境貢献

三五グループは、排気系システムの開発・製造で培った豊富な経験知のもと、技術力と開発力で、排気熱を回収してエネルギー効率を高める「ヒートコレクタ」などの製品を通じて、環境負荷の軽減に貢献していきます。

ヒートコレクタ



100%

Generation 1

2008



5%



92%

Generation 2

2010

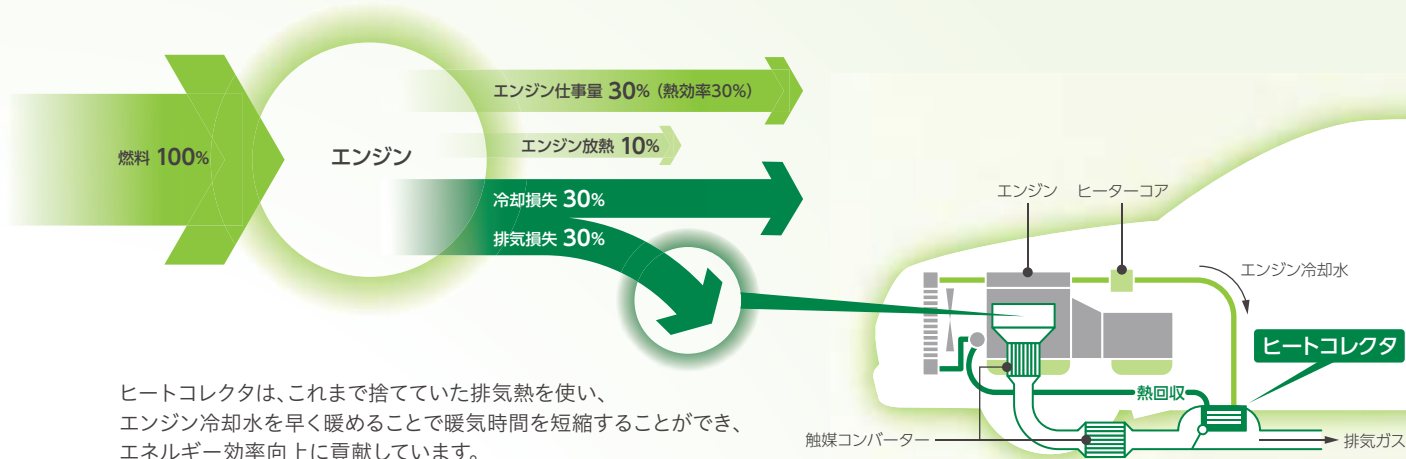


8%

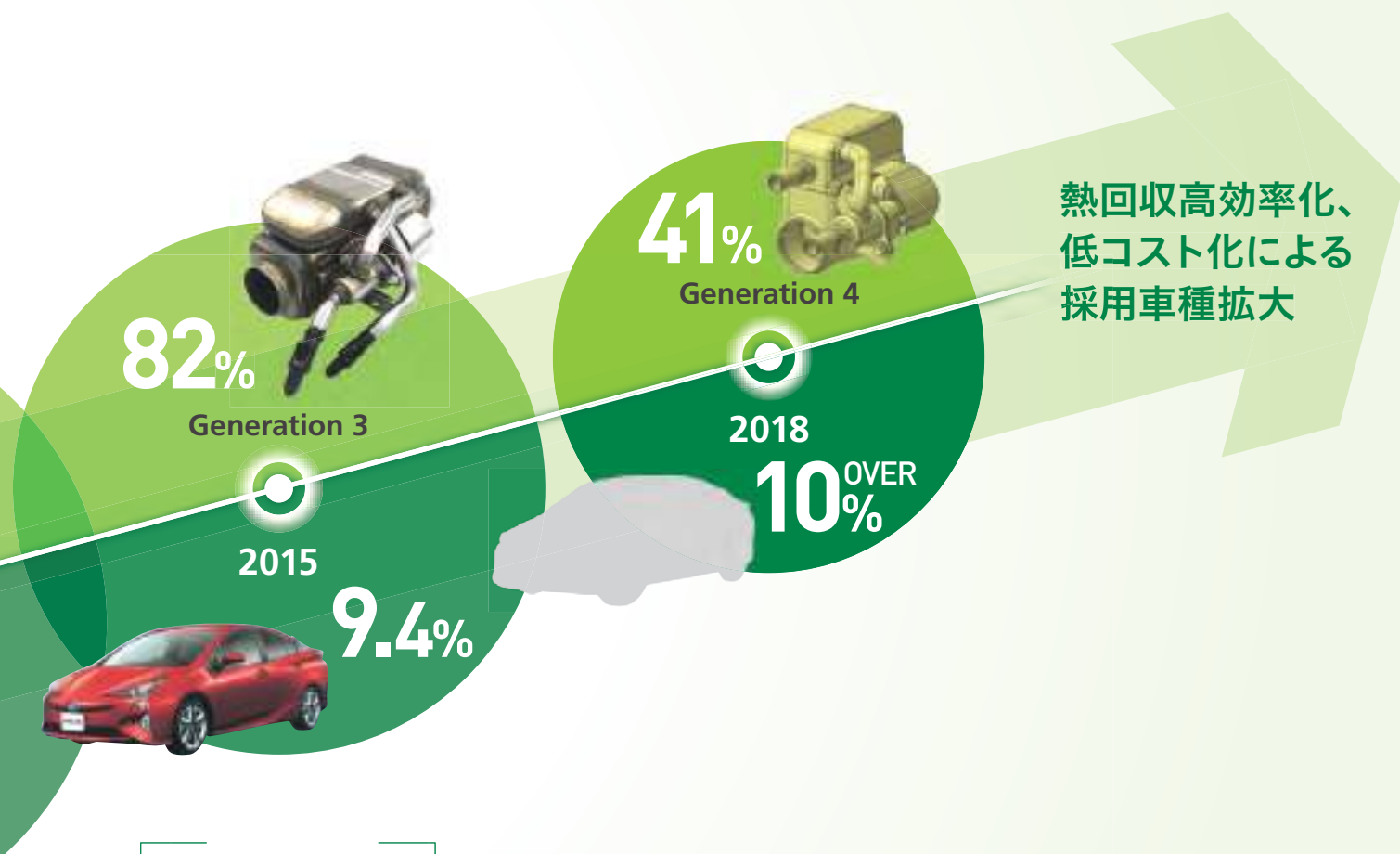
サイズ・ウエイト

燃費効果 (実用燃費)

排気未利用熱の再利用技術(排気熱回収器の導入)



ヒートコレクタは、これまで捨てていた排気熱を使い、エンジン冷却水を早く暖めることで暖気時間を短縮することができ、エネルギー効率向上に貢献しています。



技術ロードマップ

今後はこれからの時代の主流となる電動化車両の機能、ニーズにも対応した製品ラインナップの充実を図っていきます。

	エンジン車	電動化車両		
		HV/PHEV(レンジエクステンダ含)	EV	FCEV
熱マネジメント	●	●	●	●
新しい浄化システム		●		
複合材		●	●	●
モーター／電池部品		●	●	●
軽量ボデー部品	●	●	●	●
鉄鋼二次加工・粗形材	●	●	●	●
排気システム	●	●		
評価・解析技術	●	●	●	●

環境長期ビジョン“三五環境チャレンジ2050”

三五グループは、2050年の地球環境を見据えて経済成長と地球環境保全の両立を図り、持続可能な社会の実現に貢献するために、これまでの業務に『環境視点』を加え、3つの価値の創造に取り組みます。



チャレンジ5

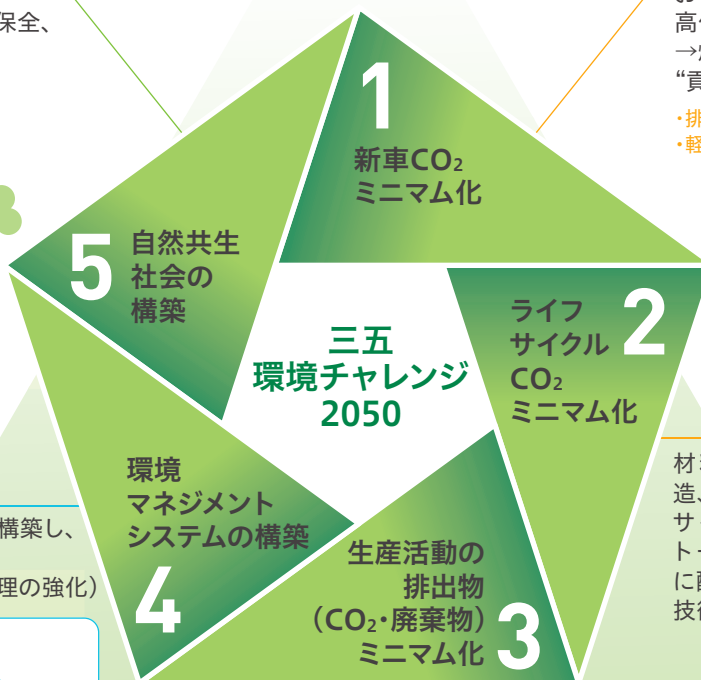
人と自然が共生する社会の実現に向けた生物多様性の保全、自然環境の保護活動の推進

- ・植樹活動
- ・外来生物駆除活動

植樹本数



5つのチャレンジ



チャレンジ1

お客様の環境価値に貢献する、高付加価値な製品の開発
→燃費性能向上でCO₂削減に“貢献”

- ・排気熱利用
- ・軽量化

排気熱回収器



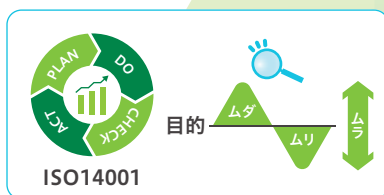
チャレンジ2

材料調達から製造、使用、廃棄・リサイクルまでのトータルで環境に配慮した製品・技術の開発



チャレンジ4

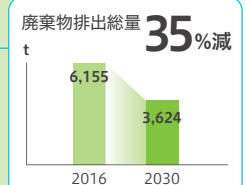
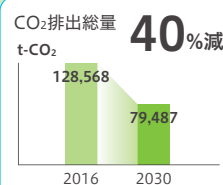
環境マネジメントシステムを構築し、環境リスクを管理し、予防と継続的改善(運営・管理の強化)



三五グループ 連結管理 (2019年7月～) → 全事業活動の排出物(CO₂・廃棄物・化学物質・水等)削減

チャレンジ3

つくり方の改革を通じ、生産活動の排出物を削減するものづくり



地域社会とともに

いのちを守る「森の防潮堤」

東日本大震災の被災地の復興に協力するため、各工場にて現地で採取されたどんぐりから苗木を育成し東北へ送る活動を行っています。

育てた苗木は宮城県岩沼市「千年希望の丘」に植樹され、成長した苗木が将来森の防潮堤となり万一、津波が発生しても、天然の防潮堤として、森が緑の壁となり、津波の威力を減退させ、引き潮時には、人や財産が海に流出するのを食い止めることができます。

この活動は2013年から毎年行っており、2017年度の約3千本を加えると、累計で1万7千本以上の苗木を出荷しています。



出荷作業を終えた八和田山工場の従業員(看板は豊田工場)
(円内)千年希望の丘植樹祭に参加した従業員

グローバルでの植樹



(上)三五北海道での植樹風景
(右)タイSTAでの植樹開会式



三五の森づくりは、横浜国立大学名誉教授宮脇昭先生にご指導いただき、2006年にECO35の植樹から始まりました。

植樹は三五各工場をはじめ、国内・海外事業体で積極的に展開しており、12年間で累計約24万本の植樹をしています。

タイでのマングローブを河口に植えるなどの活動をはじめ、地域の植樹祭のサポートなど、自拠点以外への植樹活動も広がりつつあります。

三五グループ全体で35万本の植樹を目指し、日々活動を推進しています。

地域とのつながり (小学生田植え・稲刈り・環境教育)

ECO35構内にある田んぼでは、毎年、名古屋市内の小学生を招き、田植えと稲刈り体験学習を環境教育の一環として実施しています。

参加した小学生からは、田植え、稲刈りの作業後、「米作りは大変だなあ」との声も聞かれ、ものづくりの苦勞を体感してもらっています。

また、隣接している森やビオトープで様々な生き物たちに触れ合い、自然の生態系についても学んでいただいています。



地域の小学生による田植えの風景

お客様とともに

品質学習館

過去に発生した『重大品質問題』を全従業員に風化させず伝承することを目的に、2017年11月豊田工場TPS推進センター内に品質学習館を設立しました。

展示ブースは3つのキーワードで構成されています。

- ①『伝承』・・・過去に発生した事例を後世に伝える
- ②『後工程はお客様』・・・二度と迷惑をかけぬよう重大品質問題を心に刻む
- ③『感性品質』・・・見る、触る、感じるにより良否を見極める

館内には品質意識向上クイズ、ビデオ上映などもあり、体験を通じて「高品質なものづくり」の重要性を再認識できる場となっています。

「品質学習館」のあるTPS推進センターは、各種技能教育の研修施設でもあり、多くの従業員に品質人材の育成として活用されています。



(上)見学する技能研修生
(右)クイズなど体験型の展示

品質事例展示会



(上)見学する各部署のスタッフ
(右)ビデオ上映による改善紹介

「強い製造現場づくり」を目的に、品質月間(11月)の特別行事として品質事例展示会を開催しています。仕入先様からの事例も含めた50点以上の品質改善事例をパネルで展示しています。

2017年度の参加者は900名を超え、製造部署のみならず、設計、生技、事務系部署からの参加も毎年増加しています。見学者は展示された改善事例のアイデアを各職場に持ち帰り、自職場へ展開するなど、全員参加の品質向上活動に取り組んでいます。

お客様からの表彰(CE特別受賞)

トヨタ自動車様より、レクサスLC500/LC500hに採用された当社の「排気サウンドコントロールシステム」および「1180MPa難成形品の量産工法」が新型車両開発に貢献したと評価され「CE特別賞」をダブルで受賞しました。

今回は「バルブの開発・使用により、静かさと迫力感の両立を実現した排気音の音色開発」と「ハイテン材の難成形品を安定して量産化する工法開発」が評価されました。今後も引き続き、お客様に喜ばれる製品開発に努めます。



CE特別賞 感謝状



レクサス
LC500h

仕入先様とともに

グリーン調達への推進

従来より環境にやさしい部品・資材等の調達を通し、仕入先様と共に環境保全の向上に取り組んでいます。

2018年には、「三五グループグリーン調達ガイドライン」を発行し、環境との調和を図りながら、仕入先様と一体となった活動を推進していきます。

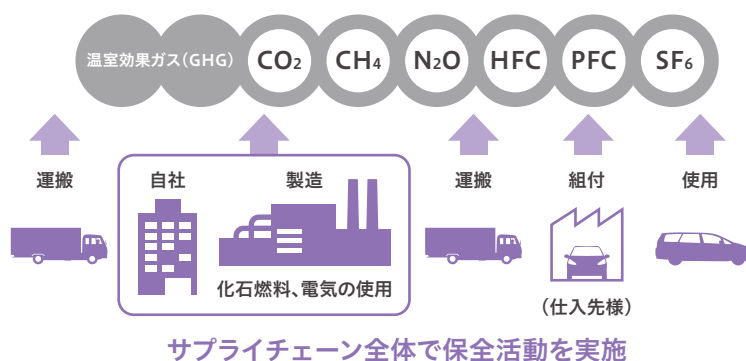
仕入先様への依頼事項

1. 環境マネジメントシステムの構築
2. 温室効果ガス(GHG)の削減
3. 水環境インパクトの削減
4. 資源循環の推進
5. 化学物質の管理
6. 自然共生社会の構築

※「5. 化学物質の管理」は「必須」で最も重要な項目。



仕入先様への説明会



「仕入先会議」を通じた情報の共有とパートナーシップ

毎月開催する「仕入先会議」では、当社からの生産動向や品質、安全などの情報提供を通じて、仕入先様とのパートナーシップを深めています。また、定期的に行う見学会や講演会では、一緒に学んだ内容を仕入先様の社内でも展開され、各社の問題解決の参考にいただいています。



浜岡原子力発電所・見学会(地震・津波対策)



「ある開発技術者の心得」と題した当社技官による講演会

従業員とともに

ダイバーシティの推進

障がい者・再雇用の方への取組み

当社グループでは、障がいを持った従業員も多数働いています。体験入社により事前に作業内容を確認し、入社後は工場相談員がいつでも相談に応じてくれる仕組みもあり、自分の能力を活かせる職場で安心して働いています。

60歳で定年を迎えた従業員9割が「定年後再雇用制度」を利用し、長く培った技術・技能を生かして働いています。働き場所についても、再雇用前の同じ職場だけでなく、無理なく働くことができる他の職場を紹介する仕組みもあり、より「やりがい」を感じる職場づくりを進めています。

子育て支援として、男性・女性を問わず利用できる「育児休業制度」や「短時間勤務制度」など、また近親者の介護をしている従業員には「介護休業制度」など、ご家庭の環境に合わせ、いつまでも三五で働くことができる制度づくりを進めています。



女性も障がい者もみんなで協力し合い、業務に取り組んでいます。

女性QCサークル



女性QCサークルの会合の様子

当社では、女性従業員も多数活躍しています。職場での時間を働きやすく、快適に過ごすために、女性QCサークルを作り、意見を出し合いました。また、職場環境に対する社員アンケートの結果を基に、やるべき事を絞り込み、社長、役員へのプレゼンテーションを経て、職場環境の改善へとつなげた例もあります。

本社事務所の女子トイレの改修を実施し、清潔で使いやすくなりました。

スマイルライン(妊婦さんにもやさしい生産ライン)

「スマイルライン」は女性による働きやすい職場づくりを目指す、ポジティブアクションプロジェクト活動から生まれました。

従来、生産現場の女性従業員は、妊娠後退職されたり、事務作業に職場を変更していましたが、妊娠しても無理のない範囲で同じ職場で働き続けたい人もいます。

妊婦さんでも無理なく働ける職場は男性でも作業がしやすく、全体の作業環境改善にもつながると考え、多様な人材の受け入れができるラインづくりを目指し、試行錯誤の末、2013年に最初の「スマイルライン」を完成しました。

現在は「すべての人にやさしいラインづくり」を目指して活動を続けています。

改善前

金属製の網を
製品にかぶせる
作業



改善後

立ち作業から体に
負担が少ない
座り作業に
改善された工程



人材育成

トレーニー制度

語学力の早期向上と異文化理解の促進を目的として、入社10年目までの社員を対象に、海外での語学研修・実務研修を約一年間かけて行う「海外トレーニー制度」を導入しています。

2017年度までに9人の若手社員を派遣し、トレーニー研修を経験した従業員の多くが日本と海外事業体を繋ぐ架け橋となって活躍しています。



調達部 第2調達課
加藤 安治さん

TSC(中国 天津)でのトレーニーを終えて

最初の半年間は、現地の大学で語学を勉強し、残りの半年で現地事業体で業務をしました。仕事上では、現地のローカル仕入先との言語の難しさに苦労しましたが、語学教育のサポートもあり、乗り越えることが出来ました。帰国後、現地事業体とのコミュニケーションがより円滑に取れるようになり、仕事の幅が広がりました。

さんごりん



(左)パイプ曲げ加工と(右)溶接加工と
(右上円)切削加工の競技風景

各製造工場・部門から代表技能士を選出し、溶接加工、パイプ曲げ加工など10種の競技で技を競い合い、メダル獲得を目指します。

7回目の「さんごりん」は全社で93名が参加、11名の金メダリストが誕生しました。近年、海外事業体からの参加者も増え、競技への関心が高まっています。相互研鑽を通じ「強い現場力」、「技能の継承」を目指し、全社的な技能向上を図っています。

プレマネジメント塾

プレマネジメント塾は「変化に対応できる時期リーダー候補の育成」を目的として始まり、現在4期目。自動車業界を取り巻く環境変化に対応するため、既存事業の枠にとらわれず新しい技術やアイデアを考える実践を通して、自分で考え判断し行動に移せる人材の育成を目指しています。

プレマネジメント塾生が
考案した
アクティブ系車イス
「NODUR」(ノドゥール)



健康づくり活動



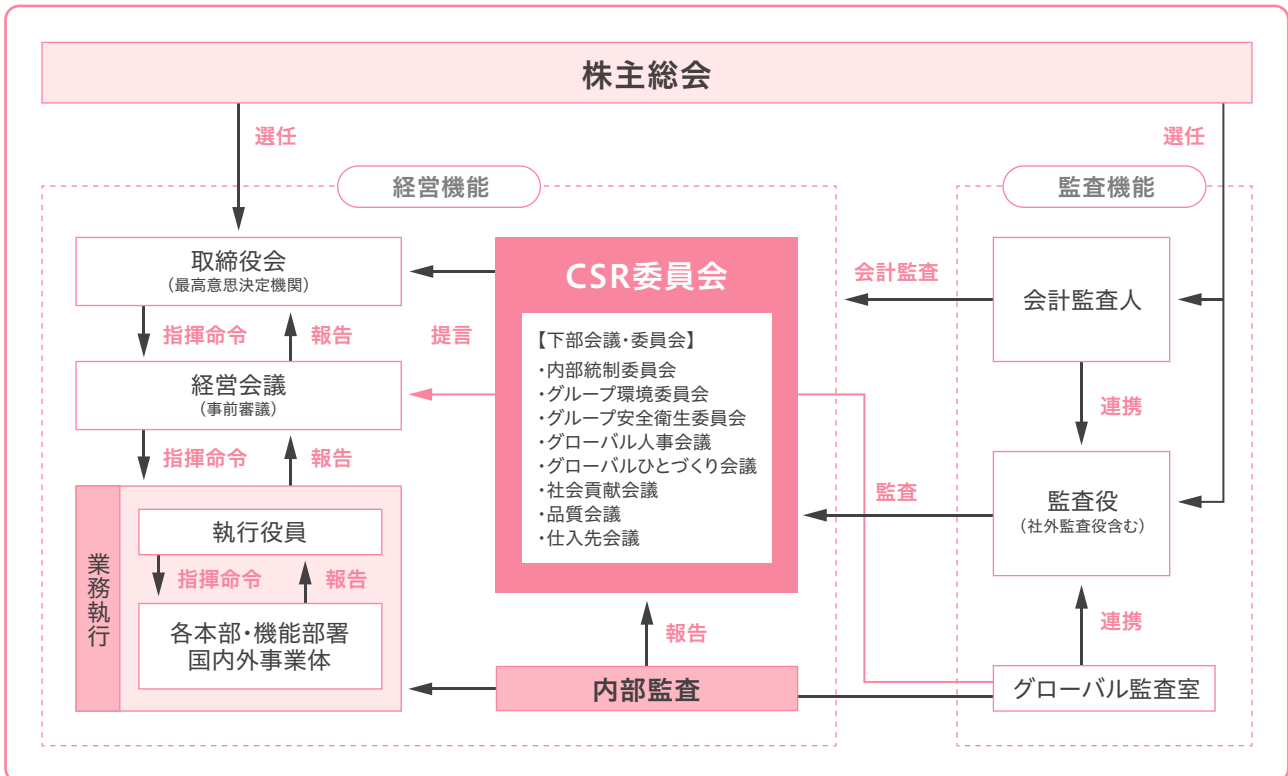
ウォーキング勉強会に参加する従業員

「心身ともに健康な人材」は企業が健全に成長するための大切な要素です。日頃の運動不足解消のため、フィットネスウォーキング勉強会を全社で開催しています。

日々の生活で実践できるウォーキングを学んだ後、引き続きウォーキングキャンペーンに参加する仕組みを作り、一人でも多くの従業員が運動習慣の定着・健康意識の醸成につながるよう取り組んでいます。

コーポレートガバナンス体制

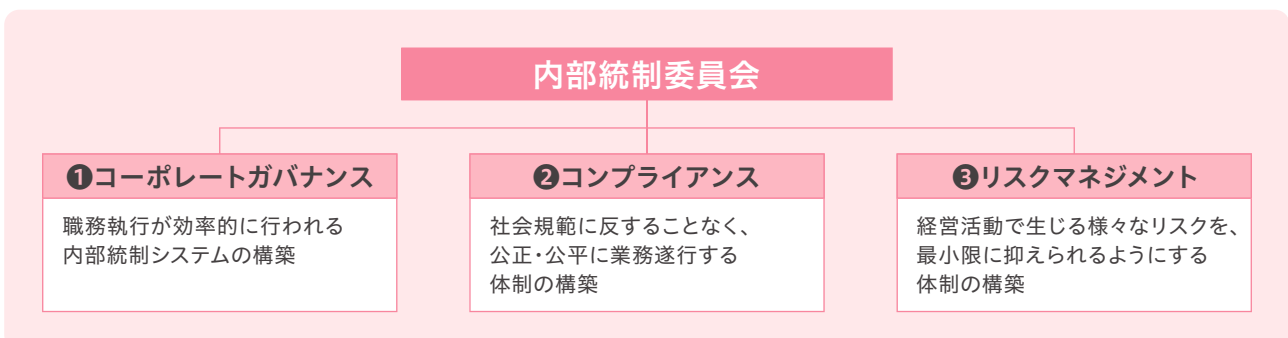
当社は、従業員をはじめ、株主・お客様・仕入先・地域社会などの様々なステークホルダを意識した、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定ができるよう、下図の通りのガバナンス体制を構築しています。



最高意思決定機関である取締役会は、法令に定められた事項や経営に関わる重要事項の決定、取締役の監視機関として位置付けています。一方で公正、独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行の監査、経営の監督を行う体制を構築しています。

内部統制委員会

当社は、組織における業務の適正を確保するための内部統制システム構築の基本方針にそって、①コーポレートガバナンス②コンプライアンス③リスクマネジメントの3つの取組みを内部統制委員会にて推進しています。



コンプライアンス

社内報での啓蒙 (さんご★コンプライアンス通信)

全従業員に配付される社内報(サンシャイン)には、毎号「さんご★コンプライアンス通信」が掲載されます。

例えば、「SNS利用上のトラブル」や「お酒にまつわるトラブル」など、製造・事務・技術のいずれの部署でも関係する身近なコンプライアンス事例を、4コマ漫画やイラストを使って分かりやすく解説しています。

従業員一人ひとりが法令や社会的規範を守り、社会の模範として行動できるよう啓蒙を図っています。



「さんご★コンプライアンス通信」の一例

重要法令研修



社内講師による重要法令研修

業務にはさまざまな法令が関係していますが、「法令を知らなかったために違反してしまった」ということがあってはいけません。

従業員がそうした法律違反をおこしてしまわないように「独占禁止法・贈収賄・下請法・派遣法・薬物取扱い」の5テーマについて、新任役職者を対象として研修を行っています。当社の状況を反映した具体的な事例を用いて、分かりやすい周知に努めています。

内部通報制度 (Sango☆ヘルプらいん)

法令・社内規則違反やそれらの潜在的なリスクを早い時点で把握し対応するために、通報者の従業員が適正に保護された状態で通報・相談できる仕組みとして内部通報制度「Sango☆ヘルプらいん」を設置しています。

「Sango☆ヘルプらいん」は、社内窓口と当社顧問弁護士による社外窓口があり、それぞれ専用メールや電話などで受け付けており、問題の早期解決に向けた重要な制度となっています。



社内で掲示している案内ポスター

Social 社会

従業員数



7,066^{※1}人

女性社員比率



6.5%^{※2}

平均年齢



40.0^{※2}歳

平均勤続年数



17.1^{※2}年

教育講座数



73講座

国家技能検定資格取得者数



291人

育児休業からの復職率



100%^{※2}

障がい者雇用率



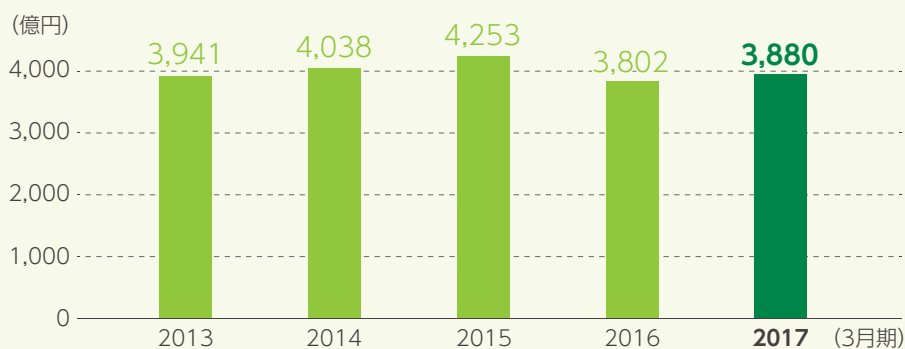
2.3%^{※2}

※1 株式会社三五および連結子会社の2018年3月末の就業者数(臨時従業員除く)

※2 株式会社三五、三五コーポレーション株式会社の2017年度の実績値

Financial 財務

売上高推移
グループ連結



Governance ガバナンス

取締役



7人^{※3}

監査役



5人^{※3}

取締役会の開催回数



12回/年^{※3}

取締役会の出席率



95.7%^{※3}

内部通報件数



5件/年^{※3}

セキュリティ研修受講者数



735名/年^{※4}

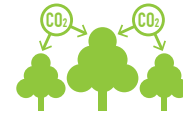
Environment 環境

累計植樹本数



247,036本^{※4}

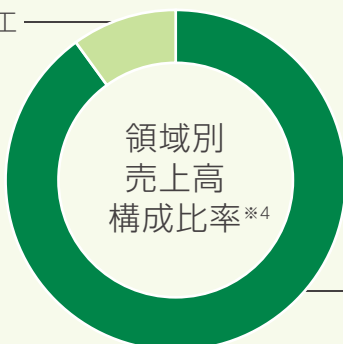
植樹による累計CO₂吸収・固定量



2,304t^{※4}
^{※5}

鉄鋼二次加工

10%



自動車部品
90%

中国

12%

豪亜

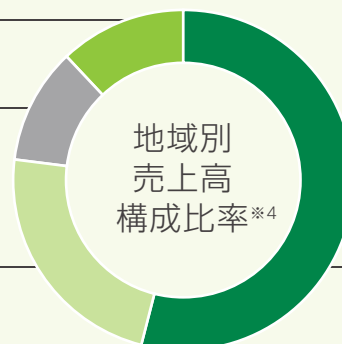
11%

欧米

23%

日本

54%



日本
54%

※3 株式会社三五の2017年度の実績値

※4 株式会社三五および連結子会社含めた2017年度の実績値

※5 数値は、植栽樹林が吸着したCO₂相当で、算出は当社の計算方法によるもの

会社概要

商号	株式会社 三五
代表者	取締役社長 恒川幸三
本社・福田工場	愛知県みよし市福田町宮下1番地1
創業	昭和3年6月1日
会社設立	昭和25年6月1日
資本金	6億800万円
主要製品	マフラー、エキゾーストパイプ、エキゾーストマニホールド、ボディ部品、ドアビーム、その他自動車部品、冷間鍛造部品、みがき棒鋼、引抜鋼管、機械構造用炭素鋼管、切削／研削みがき棒鋼
主な取引先	トヨタ自動車株式会社、日野自動車株式会社 ダイハツ工業株式会社、日産自動車株式会社 三菱自動車工業株式会社、いすゞ自動車株式会社 株式会社SUBARU、マツダ株式会社 株式会社 豊田自動織機、株式会社 ジェイテクト KYB株式会社、豊田通商株式会社 住友商事株式会社、浅井産業株式会社 株式会社メタルワン、株式会社カノークス（順不同）
主な取引銀行	三菱UFJ銀行、三井住友銀行

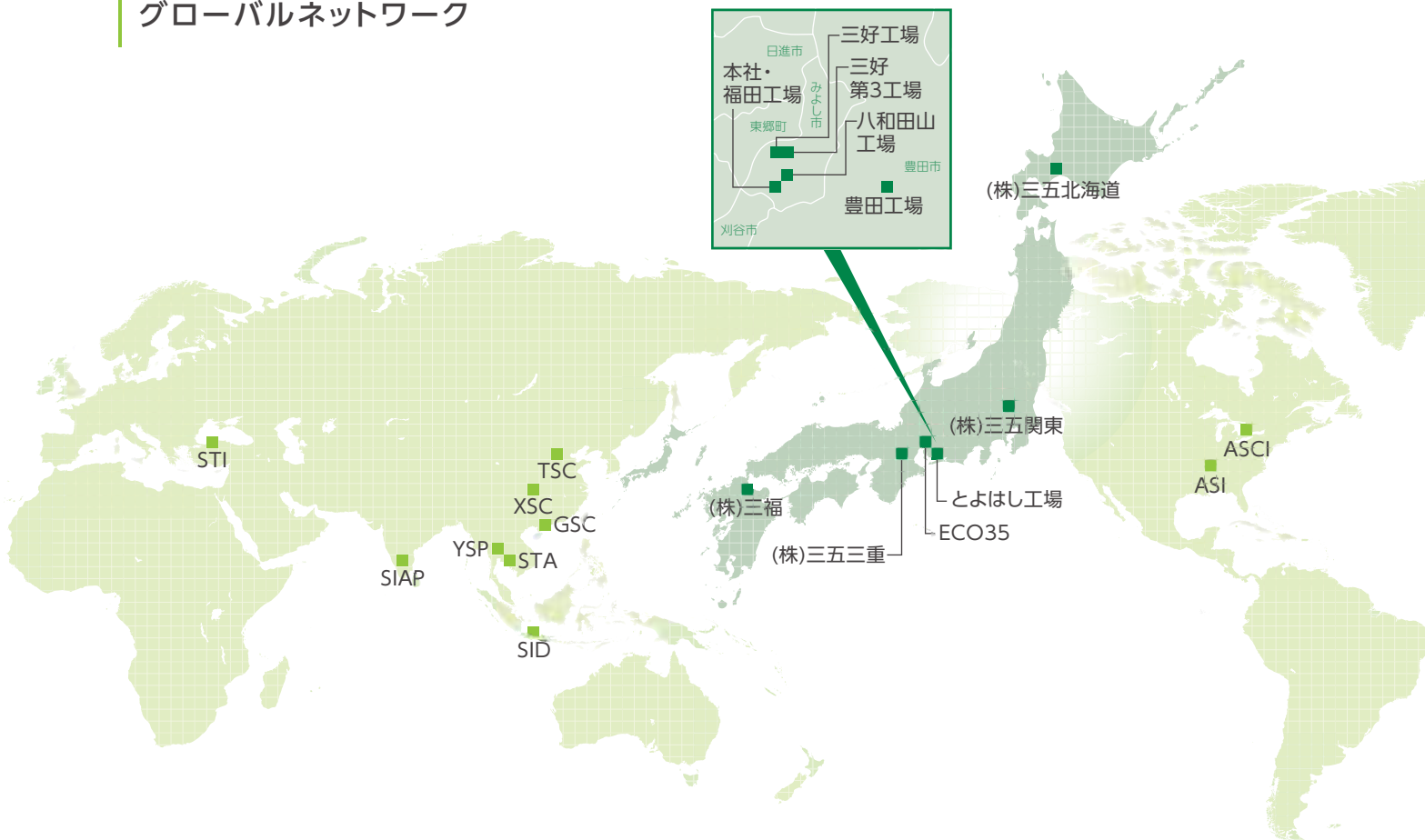


本社・福田工場



ECO35

グローバルネットワーク



製品概要

排気システム製品

エキゾーストマニホールド(エキマニ)



単管エキマニ



二重管エキマニ

排気浄化装置



触媒コンバータ(スピニング成形)



尿素SCRシステム

エンジン系パイプ



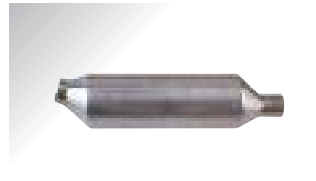
EGRパイプ

排気熱回収器



排気ヒートコレクタ

マフラー



スピニングサブマフラー



バルブ付きマフラー

マフラー



レーザー溶接マフラー



チタン製マフラー

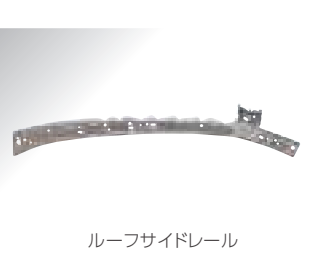


スポーツマフラー

ボディ製品



Aピラー



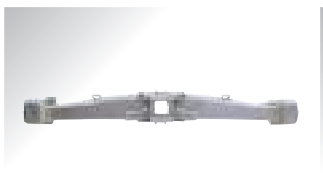
ルーフサイドレール



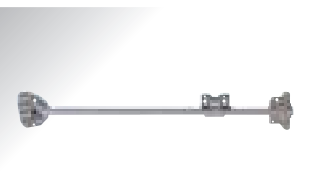
フロアクロスメンバー



ラジエーターサポート



クロスメンバー



ドライブシャフト

精鋼製品



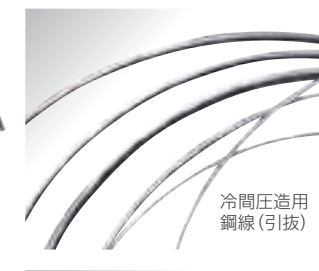
みがき棒鋼



機械構造用鋼管



みがき棒鋼(引抜)



冷間圧造用鋼線(引抜)



ステアリングシャフト



各種スラグ製品



お問い合わせ先

株式会社 三五 コーポ戦略室 ガバナンスG
〒470-0294 愛知県みよし市福田町宮下1番地1
TEL: 0561-34-0035 FAX: 0561-34-1240
URL: <http://www.sango.jp/>

